

住まいのかわら版 No.34

今年の夏は、空梅雨と思いきや

平年並みに、雨も降り、これで水不足も一安心。ε=(^o^*) ほん今回は、夏の病気、水の事故、それに対する予防策を特集します。

☆ 夏一番の病気 熱中症にご用心 ☆

★熱中症にならないために。

1. 炎天下や、暑い場所での長時間の作業やスポーツは避ける。
2. 水分を十分に補給。
3. 体調が悪いときは、無理をしないように。
4. こまめに休憩をとる。
5. 外出時は、帽子を被ったり、日傘をさしたり、直射日光に当たらない。

★熱中症になってしまったら！？(*.*)アウ!

1. 衣服をゆるめて楽にする。
2. 風通しのよい日陰や、冷房の効いた場所に移動する。
3. 冷たく冷やしたタオルや、冷たいペットボトルを、腋の下や足の付け根に置き、身体を冷やす。
4. 早めに専門医で受診する。

★熱中症の症状いろいろ。

・痛みを伴う筋肉のけいれん。 ・全身けいれん。 ・一過性のめまい

疾患	原因	症状	治療	予防
あせも	大量の汗	水疱を持ったぶつぶつがあり、かゆみが強い。	あせも用の軟膏を塗る。	発汗を抑えるために、涼しい環境を整え、汗をかいたら、拭いたり、シャワーを浴びる。
とびひ	細菌	大小の水疱があり、痒い。水疱はつぶれやすく、透明～黄色の液を持つ。	化膿止めの軟膏を塗る。または、抗生物質の内服薬。	虫刺されから始まることが多いので、かき破るのを防ぐ。
水いぼ	ウイルス	紅色で、1～5mm程度の丘疹。中身は、糊状。赤い丘疹でかゆい。	放置しても自然に治る。治療する場合は、専門医に。人にうつるため、早めの治療を。	
虫刺され	虫		大人は市販薬で。(症状が強いときは、専門医へ。)子供の場合は、症状により使用薬品が変わりますので、医師、薬剤師にご相談を。	

当社では資材を大事にしています。

建築資材の切れ端（ボード・ベニヤ・桧木・角材等）が必要な方は気軽にお電話ください。無料でお譲りいたします。日曜大工などにお役立てください。



☆海や川、池での水の事故が目立ってくる季節になりました。☆

水遊びや魚とり。

- ・どろ底の池などでは遊ばない。
- ・池や川岸の草のおい茂つてるところには近寄らない。
- ・丸太や漂流物の上では遊ばない。
- ・波の高いときは岩場には近寄らない。
- ・増水に注意。

ボートやヨット。

- ・定員以上乗らない。
- ・むやみに席を替わらない。
- ・救命胴衣を必ず身に着ける。
- ・天候が悪いときや、波や風が強いときは乗らない。
- ・危険な場所で乗り降りしない。
- ・他の船や遊泳者、ダイバーなどに気をつける。

釣りやキャンプ

- ・磯釣りは高波と足場に注意し、必ず救命胴衣をつける。
- ・河川の釣りは滑りやすいので、足元に注意する。
- ・ダムの下流や中洲などでは、水かさが変わりやすく危険なのでキャンプをしない。
- ・山間部の河川では、わずかな雨でも何が起るかわかりませんので、注意しましょう。
- ・海岸では、潮の満ち引きに注意しましょう。

※水辺に行くときには、必ず 長めのロープを持っていきましょう。もしもの時に、きつと役に立つはずです。※

☆ 夏のペットの管理 ☆

U・ω・U 犬 U・ω・U

・体力の消耗を防ぎましょう。

犬は、夏が苦手。散歩は、早朝か、夕方なら地熱が冷めたところが、オススメです。

・熱射病に注意しましょう。

外出するときに部屋を締め切ってしまうと、室内にいる犬が熱射病になることがあります。風通しをよくしたり、エアコンを弱めにきかせるなど、気を配りましょう。屋外との温度差は3～4℃くらいが適当です。また、炎天下の車内に閉じ込められて、死に至るというケースもあります。

・食餌に注意しましょう。

少量でも栄養価の高い食餌を、涼しい時間に与えるようにするとよいでしょう。また、梅雨時から夏には食品がいたみやすくなりますので、食中毒に注意し、ドッグフードなどは開封後、必ず湿気のない場所に保管する。

・皮膚のトラブルに気をつけましょう。

梅雨から夏にかけて、皮膚病にかかりやすくなります。丁寧なブラッシングやコーミングで被毛や皮膚の汚れを落とし、清潔に保ちます。ハウスなどは、まめに掃除や消毒をしてください。風通しのよい場所にハウスを移すのもよいでしょう。また、梅雨から夏にかけてはノミやダニの予防と駆除も必要です。もし、皮膚の状態に異常が見られたとき(発疹があったり、フケが多くてたり、ひどくかゆがるなど)は、必ず獣医師にみせましょう。

^(=^ε^)=^ 猫 ^(=^ε^)=^

・熱射病に注意しましょう。

暑さに強い猫も日射病や熱射病になることがあります。室内飼いの猫の場合、マンションなどの閉め切った室内は室温も上昇し、その中に長時間いることで、熱射病になってしまいます。また、真夏に狭い部屋に閉じ込められたり、ケージに入れられたりするなどのストレスがかかると、体温がより一層速く上昇します。風通しをよくしたり、エアコンを弱めにきかせるなど、気を配りましょう。車に長時間乗せるようなときは、ときどき声を掛けてあげましょう。屋外との温度差は3～4℃くらいが適当です。また、炎天下の車内に閉じ込められて、死に至るというケースもあります。

・食餌に注意しましょう。

キャットフードなどは開封後、必ず湿気のない場所に保管すること、食べ残した食器はすぐに洗って片付けるようにしましょう。また、生肉、生魚などを与えている場合はサツと熱湯を通すようにしてあげると食中毒の予防になります。

・皮膚のトラブルに気をつけましょう。

湿気の多い梅雨から気温の高い夏は、ほとんどの猫はノミに寄生されます。ノミによって引き起こされる病気もありますので、ノミ駆除を行いましょう。しかし、猫の体からノミ駆除を行っても、猫の生活する環境からノミを駆除しなければ、猫はノミに再び寄生されます。室内の畳、じゅうたん、家具の下など広い範囲を丁寧に掃除し、ノミやノミの卵を除去、猫に直接触れないようにノミ駆除剤をまきます。ダニの予防と駆除も必要です。また、伝染力の強いカビが猫の体に寄生し、人間にも感染することがあるので、猫の体をこまめにブラッシングして皮膚を清潔に保ち、脱毛が



世界でただひとつ、あなただけの部屋作りをしてみませんか？
お手伝いさせていただきます。

住まいに関することなら、何でもご相談ください。

見積もり無料！

中 西 建 設

〒818-0058 筑紫野市 湯町1丁目11-1